

一般質問通告書(平成 27 年 9 月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質問要旨
<p>1 5 番 今村 辰義</p> <p>1 上富良野中学校前町有地の支障木伐採後の跡地の活用と整備について</p> <p>(町長)</p>	<p>上富良野中学校前町有地の樹木について、立ち枯れや虫食いなどの樹木が増えたため、倒木の危険性があることから、臨時議会において、伐採のための補正予算が可決され、8月18日(火)～20日(木)に伐採された。</p> <p>中学校前の町有地では、招魂祭(7月1日)と神社祭(8月1日)において、スポーツ協賛事業として銃剣道大会を行っている。また、町民の方々が主に冬期間においてラジオ体操を実施している。</p> <p>伐採後の現状だが、空き地となり、切り株が多数点在している。また、切り株を根こそぎ取り除くと、道路に影響がでる株もあるなど問題があるとのことである。</p> <p>しかし、伐採により跡地には切り株が残っており障害になり、見た目もよくない。中学校前町有地の、跡地の活用や整備について、町長に伺う。</p>
<p>2 東明会館横の東町団地児童遊園にトイレの設置を</p> <p>(町長)</p>	<p>東明会館横の東町団地児童遊園には遊具が備えられ、子ども達の遊び場になっている。また、夏休みにはラジオ体操を行っている。しかし、残念なことに公園に指定されていないためか、トイレが設置されていない。家に帰るまで我慢できず隅でしてしまう子どももいるようである。衛生上もよくないと思われる。こういった現状を考えると、簡易トイレでもいいが、トイレの設置が必要と思われる。</p> <p>上富良野総合戦略(一上富良野町まち・ひと・しごと創性総合戦略一)(素案)に、「身近な公園等整備」という項目(P11)が載っている。総合戦略は素案の段階だが、この公園等の等に東町団地児童遊園は該当するのか。</p> <p>町長は、このトイレがないための現状をどう思われるか、また、今後トイレの設置予定はあるのか、「身近な公園等整備」とはどういうことなのか、町長に伺う。</p>
<p>2 6 番 金子 益三</p> <p>1 上富良野町手話条例制定について</p> <p>(町長)</p>	<p>言語は、お互いの感情を分かり合い、知識を蓄え文化を創造するうえで必要不可欠なものである。手話は、音声言語である日本語と異なる言語であり、手指や体の動き、表情を使って視覚的に表現する言語である。ろう者は、物事を考え、コミュニケーションを図り、お互いの気持ちを理解しあうために、また、知識を蓄え文化を創造するために必要な言語として手話を大切に育んできた。</p> <p>しかしながら、これまで手話が言語として認められてこなかったことや、手話を使用することができる環境が整えられてこなかったことなどから、ろう者は必要な情報を得ることもコミュニケーション</p>

	<p>をとることもできず、多くの不便や不安を感じながら暮らしてきた。</p> <p>こうした中で、障がい者の権利に関する条約や、障害者基本法において手話は言語として位置づけられたが、手話に関する理解の広がりや未だ感じる状況に至っていない。</p> <p>手話が言語であるとの認識に基づき、手話の理解と広がりをもって地域で支えあい、手話を使って安心して暮らせる町を目指すためにも早急に条例を制定する必要があると考えるが、いかがか。</p>
<p>2 A E Tの複数名配置を (教育長)</p>	<p>文部科学省は、平成 28 年小中高校の学習指導要領を全面改正する方針を固めた。内容は、小学校からの英語教育を強化するとともに、日本人としての主体性に係る国語や歴史教育を充実するとある。</p> <p>今後、文科省で検討を重ね、平成 32 年度の完全実施を目指す方向であり、急速に進むグローバル化に対応し、国際社会でも活躍できるために、小学校英語教育を 5 年生から 3 年生に前倒しするなどの英語教育改革実施計画が発表されたことに伴い、学習指導要領の全面改定が必要と判断された。</p> <p>具体的に、小学 3 年生から 4 年生では週に 1～2 時間、5 年生から 6 年生では週 3 時間程度実施、中学校では授業を原則英語で行い、高校では発表や討論を通じより高度な英語力を身につけさせるとある。</p> <p>上富良野町は平成 4 年から A E T をカナダから招へいしてネイチャーイングリッシュを幼少期から学び、英語力の向上を行っている。平成 4 年から現在に至るまで様々な A E T や教育委員会、さらには教育現場の努力によって英語が好きで、大きな英語力を身につけた児童生徒がわが町にもたくさんおり、今後においてこの学習指導要領の全面改定に基づき、わが町特有の英語教育を伸ばす方策として、A E T を複数名招へいし、それぞれ、小学校担当、中学校担当としてわが町の児童生徒が他の町よりも多くの時間と内容が充実した英語教育を受けることができるように、現在の 1 名から少なくとも 2 名以上の配置をすることが望ましいと考えるが、いかがか。</p>
<p>3 7 番 北條 隆男 1 歩道と街路灯の新設について (町 長)</p>	<p>町道北 27 号道路、日の出公園から道道吹上上富良野線までの間に歩道や街路灯の設置がされていない。観光客の車やパークゴルフ場への出入りの車も多く、トラックやバスなどの大型車両などの通行も多い。歩行者や自転車、運動や健康のためにランニングや散歩、パークゴルフ場へ通う人も多い。また、通学路として利用する生徒も見られる。歩行者や自転車での通行の安全を確保するためにも歩道と街路灯の新設が急務ではないか。町長の考えを伺う。</p>
<p>2 除雪について (町 長)</p>	<p>平成 24 年から始まった除雪の民間委託から 3 年が経過した。町民からは「町が除雪していたときに比べて除雪が悪くなった」、「家の出入り口に大量の雪が残っている」といった苦情の声が聞こえる。</p> <p>4 年目となる今年は、こうした苦情を未然に防ぎ改善しなければならないのではないかと。まずは、行政と各住民会から 1～2 名と委託各業者が集まり、除雪が本格的に始まる前（10 月中旬から 11 月中旬）</p>

	<p>までに話し合いの場を設け、除雪に対する問題点を洗い出し、町と委託各業者が改善「できる」ことと「できない」ことに分けて町民に公表してはどうか。</p> <p>また、除雪開始から2カ月を目途に出てきた苦情に対しても、もう一度話し合いの場を設けて改善することはできないか。町長の考えを伺う。</p>
<p>4 10番 高松 克年</p> <p>1 高齢者、独居老人世帯の除雪後における戸口排雪の問題について (町長)</p>	<p>27年度執行方針の「町民の皆さんが安心して住み続けられる街づくり」「身近な生活の安全を支える社会基盤の充実と環境保全」の中にある道路維持管理は、民間に委託してから4年目を迎える。今日までの課題についてさらに検討を重ねるとあるが、今冬期はどのように対応し支援を考えているのか伺う。</p>
<p>2 農業振興資金及び生産振興補助金の必要性について (町長)</p>	<p>新卒者やUターン、Iターン、新卒の就農者による新技術の導入や、新しい高収益作目への誘導のためにも、必要な補助金だと考えるが、町長の考えを伺う。</p>
<p>3 TPPの締結後の上富良野農業の影響と農業振興策の方向性について (町長)</p>	<p>2013年3月にTPP交渉への参加が正式に表明された。しかし、実際にどの程度で締結されるのか不明なことが多く、町の基幹産業である農業にとっては最大の関心事でもある。町長の見解を伺う。</p>
<p>4 公民館分館施設の維持管理について (教育長)</p>	<p>郡部の人口減少と相まって、地域の集合共同活動の拠点である公民館分館の6施設が昭和50年代と老朽化している現状にあり、今後、どのように管理していくのか、また、どのように管理すべきなのか伺う。</p>
<p>5 9番 荒生 博一</p> <p>1 十勝岳山麓ジオパーク構想について (町長)</p>	<p>平成29年度の日本ジオパーク認定登録をめざし、本年度4月に美瑛町と上富良野町両町の関係団体や機関による地域協議会が設立され、8月にはかみんにて講師を招き講演会を行うなど、認定に向けて今後色々な取り組みを進めていくと思う。</p> <p>町広報紙の7月号に「町全体でこの活動を盛り上げて認定を目指しましょう」と書かれていたが、具体的にどのように町民の皆様を活動に参加していただくのか、現在のプランを伺う。</p> <p>また、ジオサイトの候補地やジオガイドの育成など、協議会での決定後、町民と共にプランニングするためには協議会傘下の団体などの組織づくりは考えているのか町長の考えを伺う。</p>
<p>2 観光振興計画について (町長)</p>	<p>平成25年度から平成30年度までの6年間の計画期間で定められた観光振興計画の中の行動計画に自然散策ツアーの実践のためのガイドの育成と書かれている。計画の策定から3年が経過した現在、実現に向けてのプランはどのように考えているのか。</p> <p>もしも育成プランをすぐにでもスタートする準備があるならば、ジオパーク認定に向けて同時進行で</p>

	町オリジナルの「かみふらの観光マイスター」などの制度を作り、目標達成のために始めてはどうか。 また、これによって、自衛隊退官者の雇用にもつながると考えるが、町長の考えを伺う。
6 12番 中瀬 実	
1 農業振興について (町 長)	平成 27 年の町政執行方針の中で、農業について第 7 次農業振興計画 2 年目に当たり、農業が今後もわが町の基幹産業として持続できるように実践計画を策定して事業の推進具現化を図るとあるが、その実践計画についてどのように考えているのか伺う。
2 農業後継者対策について (町 長)	平成 24 年の農地プランの意向調査によると、後継者がいると答えたのは 83 戸、農家全体の 27.2%となっており、直近の戸数は何戸となるのか。後継者確保のため、今何が必要と思われるか、考えを伺う。
3 家族経営協定締結について (農委会長)	家族経営協定は農業委員会が推進しているが、最近では締結する家族が少ないと思われる。現在の締結数(中身)について今後推進する予定があるのか伺う。
4 農業年金の加入促進について (農委会長)	現在の上富良野町の農業者の加入件数(男女別)と、今後どのように推進を考えているのか、考えを伺う。
7 1番 中澤 良隆	
1 市民後見人の養成と周知について (町 長)	高齢化の進展で認知症や知的障がいなどにより、判断能力が不十分な人に代わって財産管理や契約行為を行う成年後見人制度の必要性が高まってきている。わが町の実態から弁護士などの専門職後見人に代わる「市民後見人」の養成が急務と考える。 平成 25 年第 4 回定例会で「市民後見人の育成と活動支援」について一般質問を行い、町長の市民後見人に対する認識や、老人福祉法の改正に基づき市民後見人の養成に対する積極的な取り組み姿勢について高く評価するところであるが、その後の町の取り組み状況などについて伺う。 (1) 現在、何名が市民後見人養成講座を修了したのか。そのうち何名が成年後見センターなどに登録しているのか。専門職後見人を含めて、わが町の利用実態は。そのうち市民後見人の後見希望はあったか。市民後見人の養成をどのように進めてきたか。 (2) 受講料が高額であり、養成講座を受講する希望者が少ないとのことであったが、助成などの検討状況はどうなっているか伺う。 (3) 前回の質問ではセンターなどへの登録者はいないとのことであり、その対処として市民後見人をサポート、コーディネートする中核機関の整備を行いたいとのことであったが。 (4) 住民への周知は進行しているか。
2 外国人観光客の受け入れについて (町 長)	2014 年、北海道に 154 万人の外国人観光客が訪れ、最近、特に台湾や中国、韓国、また東南アジアの国々からもこの富良野地方に大勢の外国人が訪れてきている。 観光がもたらす経済波及効果は大きいものがあり、招へい活動の充実は勿論であるが、外国人観光客

		<p>の受入れに対する環境整備と戦略について町長の見解を伺う。</p> <p>(1) 外国人観光客の受け入れについての考え方と、将来展望について伺う。</p> <p>(2) 外国人観光客による問題点が、交通事故の発生、浴場やトイレの使用方法、ゴミのポイ捨てなどのマナーなど数々見受けられるが、その対策と取り組みを伺う。</p> <p>(3) 外国語表記による看板や交通標識などの整備が必要と考えるが、その整備方針について伺う。</p> <p>(4) 町民の外国人観光客を受け入れる「おもてなしの意識」の向上を図る必要があると考えるが、その対策は。</p>
8 11番 米沢 義英	(町 長)	<p>自然災害の発生が多発する中で、町においても減災対策の取り組みが一層求められてきていると考える。そこで、国では国民の生命を守るため、活動火山対策特別措置法の一部改正が行われ、宿泊施設など不特定多数の人が利用する施設にも、避難計画の策定と訓練の実施を求められていると聞いているが、次の点について伺う。</p> <p>(1) 活動火山対策特別措置法改正の主な内容について</p> <p>(2) 宿泊施設など不特定多数の人が利用する施設の避難計画策定の今後の課題と対応について</p>
2 子どもの貧困対策について	(町 長)	<p>親から子への貧困の連鎖が社会問題になっている。厚生労働省では、18歳未満の子どもの貧困率は2012年度時点で16.3%、2009年度より0.6%悪化したと報道され、ひとり親家庭では54.6%に上り、子どもの6人に1人が貧困状態にあるとされ、次の点について伺う。</p> <p>(1) 上富良野町におけるひとり親家庭と就学援助の現状について過去10年間の対比で伺う。</p> <p>(2) 上富良野町の子供の貧困率について</p> <p>(3) 国においてもひとり親家庭に対する支援を強化すると述べているが、その主な内容と町の今後の対応について</p>
3 担い手の育成について	(町 長)	<p>上富良野町の農業は、農畜産物の輸入自由化などの要因で、農業戸数や農業を担う若い人たちが少なくなってきたとあり、今後の対応について伺う。</p> <p>(1) 上富良野町の農業を守るためにも、地元の若い人たちの育成と将来農業経営に携わりたいと感じている若者たちを上富良野町に誘導するなど、担い手の育成を強化しては。</p> <p>(2) 上富良野町においても女性農業者の担い手が、多様な取り組みを始めている。町としても今後持続的な農業を保つためにも、何を望んでいるのか意見を聞く機会を従来よりも増やし、農業やまちづくりに活かすべきと考えるが、対応について伺う。</p>

<p>4 子育て支援について</p> <p>(町 長)</p>	<p>人口減少の中で子育て支援の強化は重要な柱となっており、次の点について伺う。</p> <p>1 中学校までの医療費の無料化の考えについては、総合的な判断をし、バランスの取れた子育てを支援することが重要だと述べ、現在は考えていないと述べている。しかし、この間の選挙戦の中でも多くの子育て世帯が、中学校までの医療費の無料化切望していることを感じた。今後の対応について伺う。</p>
<p>5 教育大綱について</p> <p>(町 長)</p>	<p>法の改正を受け、教育大綱を策定したと報道された。重点策としては、ジオパーク認定を目指す十勝岳をテーマとしたふるさと学習や外国教育含め8項目が柱となっているが、次の点について伺う。</p> <p>(1) 学校教育や生涯教育に活かされるのか。また、予算の確保について伺う。</p> <p>(2) 地質遺産としての十勝岳を含めた産業や郷土歴史などのふるさと学習とあるが、幅が広すぎるのでは。</p>